

令和4年度 甲府南高等学校同窓会 式次第

会 場；母校 視聴覚室
受 付；13:30～

総 会

14:00～15:00

会場；母校 視聴覚室

1. 開会のことば
2. 実行委員会代表あいさつ
3. 同窓会会長あいさつ
4. 祝辞
5. 物故恩師・会員への黙祷
6. 議長団選出
7. 議事
 - 1) 令和3年度事業報告
 - 2) 令和3年度決算報告
 - 3) 令和4年度事業計画案
 - 4) 令和4年度予算案
 - 5) 役員改選
 - 6) その他
8. 議長団解任
9. 校歌演奏
10. 閉会のことば





総会開催に寄せて

甲府南高等学校
同窓会会長 望月立弥

この3年間、新型コロナウイルス感染症の拡大により、同窓会総会・懇親会が開催できず、常任理事会を総会に換えてきましたところ、今年度懇親会は中止となりましたが、「緑陽」を発行して総会を開催することとなりましたことを同窓の皆様方と共にお祝いしたいと思います。

昭和38年に設立されました、母校甲府南高等学校は、今年創立60周年を迎えました。人生で言うと還暦となります。その間、卒業生は2万名を超え、関係各位のご尽力により、山梨県を代表する高校となり、全国にその名を知られるようになりました。

「スーパーサイエンスハイスクール」にも5回連続指定され、全国でも有数の理系人材の輩出校となり、部活動でも体育・文化両面で全国や関東大会に出場するなど活躍しています。

同窓会の目的は、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することにあります。現在も多様な事業を展開し、学校や在学生に対して全面的な協力をしています。今後、コロナ渦を克服し、会員相互の親睦が図れるよう努力して参る所存です。

創立当初の合い言葉であり、現在は校訓となった「開拓者精神」（フロンティア・スピリット）は、様々な年代の同窓生がそれぞれの時代背景の中で在学中学んだことと思います。

新型コロナウイルスの蔓延や、ウクライナでの戦争等による様々な危機が押し寄せている現在、開拓者精神を身につけた同窓生各位が、創造的な革新に向け活躍する時です。益々各方面での活躍を期待しています。

今回の「緑陽」発行と総会開催にあたり、3年に渡る変速な担当となった35、36、15、16期の実行委員会の皆様に感謝申し上げます。

また、校長先生を初め学校関係者の皆様のご理解、各期常任理事他関係者の長期に渡るご尽力、ご協力いただきました多くの皆様方に衷心より感謝申し上げます。

校歌の一節の「輝くよ、輝くよ、我らが未来」のように、同窓生と甲府南高等学校の輝く未来を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



御挨拶

山梨県立甲府南高等学校

校長 篠原 茂樹

同窓会記念誌第28号「緑陽」の発行にあたり謹んでお祝い申し上げます。また、日頃から母校の発展のために、物心両面からの御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、本校は、昭和38年の開校以来、2万人を超える卒業生を送り出してきました。卒業生は県内や国内のみならず世界の様々な分野において活躍されています。そして、在校生は、新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない状況ではございますが、創立以来60年の年月の中で受け継がれてきた校訓「開拓者精神」を胸に、「真善美」の-high理想と高い志を掲げながら互いに切磋琢磨し、意欲と活気にあふれた高校生活を送っています。

部活動におきましては、体育局では、山梨県高校総合体育大会やインターハイ予選で多くの部が目標とする結果を残し、陸上競技男女、剣道女子、ソフトテニス男子の各部と、水泳が関東大会に、ソフトテニス男子、少林寺拳法がインターハイに出場しました。文化局では、全国高等学校総合文化祭に、音楽、物質化学、生命科学、管弦楽、書道の各部の生徒が、囲碁部門と将棋部門にはクイズ研究同好会の生徒が、それぞれ県代表として参加しました。また、NHK杯全国放送コンテストに放送部が、小倉百人一首競技かるた全国選手権には文芸部競技かるた支部が、そして全国高校囲碁選手権にクイズ研究同好会が出場するなど、多くの南高生が日々の練習の成果を発揮し、全国や関東の舞台で活躍しました。

今年度、本校は文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の第V期3年間の指定を受けました。本校のSSHの目的は、科学的現象や社会の諸問題を、創造的かつ科学的アプローチで解決できる科学技術人材の育成であり、そのために課題研究を主眼とした学校独自のカリキュラムを開発し、本校での3年間の学びが大学や社会で活用できる探究力や研究力につながるようなプログラムの充実に努めてきました。第V期では、これまでに開発したプログラムの深化と他校への普及を目指し、平成16年のスタートから19年目となるSSH事業の充実発展に全校体制で取り組んでいきます。

本校では、伝統と挑戦を大切にしながら、学業はもとより緑陽祭をはじめとする学校行事、部活動、ボランティア活動など様々な経験を通して、知徳体のバランスのとれた、これからの時代をたくましくしなやかに生きていくことのできる生徒の育成に力を入れております。今後も広い視野を持ち、先を見通すことができる課題解決力とリーダーシップを備えた社会に貢献できる人材の育成に努めて参ります。

今後とも、甲府南高校のさらなる発展のために尽力して参りますので、同窓会の皆様方には、母校の教育振興のため、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、甲府南高等学校同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



同窓会開催のご挨拶

令和4年度同窓会総会

実行委員長 萩原 剛

(35期卒)

新型コロナウイルス感染症。この世界的大流行を受け、今までの常識や当たり前が通用しなくなり、先の見えない我慢の日々を強いられる。異例に次ぐ異例。誰が想像出来たでしょうか。

盛大に行うはずであった同窓会総会及び懇親会並びに古希の会は2年連続で中止となり、同窓会活動そのものを自粛せざるを得ませんでした。

今年度も懇親会を見送る事になりましたが、同窓会記念誌『緑陽』の発行は行いました。これには、この先どこまで待てば元に戻るのか。そもそも元通りになるのか。このまま行けば同窓会活動が行えず縮小を余儀なくされ、同窓会が衰退してしまうのではないか。その様な危機感の中、これまでこの甲府南高校同窓会を築き上げ、盛り上げて下さった諸先輩達の伝統と想いを紡ぎ、未来に繋げていく事が重要だと考えた結果でした。今年度のテーマを『紡ぐ』に決めたのもその様な想いがあったからです。

準備期間は実行委員が集まることも制限される中、感染状況を見極めながらぎりぎりでの判断を迫られ、例年通りのやり方は出来ず、時間も無い状態でした。この様な条件下であったためとは言え、ご連絡・ご報告が行き届かず、沢山の方へご無礼やご迷惑をお掛けいたしました。ひとえに私の不徳の致すところであります。この場をお借りして心よりお詫び申し上げます。

異例の中での想いに様々なご意見を頂戴し、様々な想いがある中、それでも皆様のご協力のもと本日に至りました。

望月同窓会会長をはじめ同窓会理事の皆様、先生方、貴重なご意見やご協力を頂いた15期・16期の副実行委員の皆様、共に尽力頂いた36期の実行委員の皆様、そしてこの様な大変な時期に気持ち良くご協賛・ご寄付頂きました多くの皆様の、大きなお力添えに深く感謝申し上げます。

甲府南高等学校は、今年創立60周年を迎えました。先の見えない新たな時代に差ししかかった今だからこそ、過去から現在、そして未来へ大切な想いを紡ぎ、時代に合った新しいものへと変化を遂げなければなりません。これから更に80年、100年と甲府南高校が発展されます事を、皆様の更なるご健勝とご多幸をご祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



同窓会開催に寄せて

令和4年度同窓会総会

実行委員長 有 井 卓

(36期卒)

感染症で世界中に大きな影響がある中、3年ぶりとなりますが、令和4年度甲府南高等学校同窓会総会が、何とか開催できますこと、心より御礼申し上げます。また、苦渋の決断ではありますが、懇親会の開催を中止とさせて頂きましたことを深くお詫び申し上げます。甲府南高等学校同窓会の灯を絶やぬよう、同窓会誌「緑陽」の発行と総会の開催にあたり、望月同窓会長はじめ、多くの同窓会理事の皆様、ご協賛を賜った各企業、団体の方々、副当番幹事の15・16期の皆様、そして、古希を迎える6期の皆様、本当にたくさんの偉大な先輩方のお力添えを頂戴いたしました。特に、当番幹事をともにさせていただいた萩原実行委員長はじめ、35期の皆様には、2年間にわたる同窓会総会・懇親会及び、同窓会誌発行の見送りを経て、今年度の総会開催及び同窓会誌発行と母校のためにご尽力いただいたことは感謝してもしきれません。まだまだ制限がある世の中ですが、いつの日か、顔を合わせ安心して歓談できる日が来ることを信じ、現状への不満を語ることなく前向きに同窓会の一員として歩んでいきたいです。

さて、私達36期生は、現在の校舎で毎日、勉強や部活動に精一杯取り組み恩師から日々熱いご指導をいただく中、充実した高校生活を送っていました。その中で友人とのたわいもない会話、緑陽祭や合唱コンクール、体育祭などかけがえのない青春時代を過ごしたことが、当番幹事となり、鮮明によみがえりました。時は流れましたが甲府南高等学校で学ぶことができたのは「誇り」であり、「一生の宝」でもあります。今後、本年度のテーマである「紡ぐ」のように、在校生、卒業生が母校の未来を担い紡いでいくことを願っています。結びに母校の益々の発展と、在校生のかけがえのない高校生活の実現、並びに甲府南高等学校に関わるすべての方々の更なるご活躍とご多幸を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



同窓会開催のご挨拶

令和4度同窓会総会

副実行委員長

大久保 俊 雄

(15期卒)

新型コロナウイルスにより、中止を余儀なくされておりました同窓会・懇親会を3年ぶりに、諸先輩や多くの同窓生をお迎えし、盛会となるよう、35期・36期・15期・16期で年当初より準備を進めて参りました。

しかしながら変異種の発生、第7波のピークアウトには至らぬ点等を鑑み、本年は総会及び記念誌発行のみを実施することになりました。

誠に残念でありませんが、歴史と伝統のある甲府南高校同窓会の伝統を継承し、現役生への支援のための事業遂行であり、趣旨をご理解賜りたくお願い申し上げます。

さて母校甲府南高校は昭和38年の開校以来、約2万人の卒業生を送り出し、その卒業生は県内や国内のみならず、World Wideの様々な分野において活躍されております。校訓のFrontier Spirit（開拓者精神）を胸に、新しいもの、困難な事象にも積極果敢にチャレンジしていく気風の中で、年代を超えた同窓生が、様々な時代風景の中で学んで来られました。私自身も今日の自分があるのも（開拓者精神）のお陰であり、よく遊び少しだけ勉強した、多感な密度の濃い3年間は思い出されます。

昨今はコロナ禍、環境破壊、ロシアのウクライナ侵攻等による世界平和の不安、円安、エネルギー価格高騰等、政治・経済・福祉・教育等々今まで通用していた制度設計・ルールそして地域コミュニティのあり方までもが混乱を大きくしております。

混乱した時代だからこそ、同窓会とは過去の邂逅の思い出を語る場であるばかりではなく、それぞれの歴史を垣間見、時代に適応し、変革者として、正に本校同窓会の出番ではないのでしょうか。本校の発展、同窓会の発展を力として、未来へ向かって日本及び世界の発展・平和に大きな足跡を残して頂けることを願っております。

結びに35期生と36期生、15期生と16期生、同窓生の皆様、学校関係者と御協力頂いた企業の皆様方と同窓生のますますのご発展とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



同窓会開催に寄せて

令和4年度同窓会総会

副実行委員長 小林 厚

(16期卒)

令和4年度山梨県立甲府南高等学校同窓会は規模を縮小して実施、懇親会は残念ながら中止のやむなきに至りました。憎きはCOVID19。微力ながら副実行委員として総会の準備に関わらせていただきましたが、中心となって準備を進めた35期・36期の実行委員の皆様のご努力に敬意を表すとともに、無念の思いを共に噛み締めております。また、懇親会の開催は見送るがなんとか「緑陽」の発行は行いたいという実行委員の強い思いに応え、ご協力をいただいた多くの企業、同窓生の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

さて、現在の落ち着いた校舎とは異なるカラフルな色使いの学び舎で過ごしたのは、もう40年以上前のことです。あの頃、未来には明るい光が差し、大志・大望を抱かずとも何かを成し遂げることができるだろうと何の根拠もなく信じておりました。卒業後、その幻想は昭和の終焉とともに儚く消え去り、バブル崩壊、リーマンショック、テロの多発等、先行き不透明な時代を迎えました。しかし、「失われた30年」と言われるこの時代は、物質的には満たされており、表面上はツルリとしていて流されるように生きることができたのかもしれない。何かを成し遂げられたかは別として。

現在の甲府南高校の在校生諸君は未来をどのように見ているのでしょうか。少なくとも私たちの頃のように楽観的な思いは抱けないのでは。不透明な経済情勢、ウクライナでの紛争にとどまらず身近な所で高まる地政学的な緊張、危機的な局面を迎えている自然環境。まるで地球全体がささくってしまったようです。でも、ここは一つポジティブに考えてみませんか？

行き詰まりを見せた世界で政治、経済、文化など様々な分野に生じている綻びは、従来の価値観では繕うことができない、新しい価値観をもって立ち向かわなければならない未開の地、フロンティアです。まさに「フロンティア・スピリット」を校訓とする甲府南高校同窓生が思う存分力を発揮するべき場所でしょう。時代が甲府南高校同窓生に活躍のステージを与えてくれたのです。

開拓者精神をもって、荒涼とした地に「真・善・美」の王国を築く甲府南高校同窓生。COVID19に懇親会を阻止された腹癒せにこんな妄想を抱きつつ、同窓生のさらなる発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたします。



総会開催に寄せて

甲府南高等学校
第59代生徒会長 小澤 朱麗

この度、令和4年度甲府南高等学校同窓会が盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

甲府南高校では校訓である「Frontier Spirit」を胸に、一人ひとりが個性を発揮し、学業のみならず多方面で活躍しています。そんな甲府南高校の日々の活動についてこの場をお借りして紹介させていただきます。

まず、4月8日に第60回甲府南高校入学式が昨年度に引き続き挙行され、今年も多くの新入生を迎え入れることができ、新たな南高校の1年が幕を開けました。新型コロナウイルスの影響で対面式を行うことはできませんでしたが、生徒会本部と音楽部が中心となって校歌の歌唱指導を行いました。

5月には第74回山梨県高等学校総合体育大会が開催され、数多くの部がそれぞれのフィールドで日々の努力の成果を十分に発揮し奮闘しました。また、本校では関東大会や全国大会、インターハイといった大舞台で輝かしい結果を残す部もあり、多くの生徒が全国レベルの選手と競い合いました。

さらに、6月14日、16日、17日の3日間で本校最大行事である「緑陽祭」が行われました。今年度の緑陽祭は新型コロナウイルスの影響で途絶えてしまった今までの緑陽祭を取り戻しながらも、新しい技術を取り込んだ、新しくも元通りの緑陽祭を全校の皆さんや関係者のみなさんに愛していただきたいという思いから「ぼくらは南に恋をする。」というテーマがつけられました。今までのようにはいかないこともたくさんありましたが、仲間と最高の緑陽祭を創り上げるという共通の志を抱きながら過ごした準備期間は瞬く間に過ぎてゆき、間違いなくあの期間は高校生活の宝物になったと思います。これまでの伝統を引き継ぎつつも、今まで以上のもを創り上げることができました。ご尽力くださった沢山の方に無事に大成功を収めることができたことにとっても感謝しています。

今年度も生徒会活動は、生徒中心で企画や運営をこなし、新しいことの開拓を進めてまいりました。一人では達成し得ないことも同じ開拓者精神を持つ仲間と協力することで乗り越えることができます。これからも仲間とともに様々なことに挑戦していきたいです。また、本校はSSHの指定を受け、理数系の探究活動に打ち込める環境が整っています。学業、部活動、生徒会活動等の活動に全力を尽くせる環境が整っていることに感謝し、これからもそれらの活動に邁進してまいります。

本年度60周年を迎えるこの甲府南高校には、素晴らしい先生方や先輩方、共に高めあえる開拓者としての仲間がいます。私たち生徒は、恵まれた学習環境と沢山の関係者の皆様感謝するとともに、南高生としての誇りを胸に、これからも力強く歩み続け、南高校を発展させていきたいと思ひます。